

古荘家住宅



宇佐市指定文化財（平成 17 年 3 月 23 日指定）

大分県宇佐市安心院町龍王

建築年代/明治 13 年(1880)

用途区分/大庄屋・戸長

指定範囲/主屋

公開状況/非公開

宇佐市の南郊に位置する安心院町は、壁面や屋根の妻面に鰻絵を施した民家が集中していることで知られる。当住宅の二階戸袋にも子孫繁栄を象徴する朝顔の鰻絵が施され、白漆喰塗籠造の外壁に彩りを添えている。龍王集落は江戸時代初頭の短期間のみ能見松平家による龍王藩の居城が置かれた土地柄で、当住宅はその城下町に所在する大庄屋屋敷である。廃藩より 300 年以上の時が経過して町は農村化したにも関わらず、外観を町家形式とする

不変性に驚いてしまうが、間取りは純然たる農家のものである



「朝顔と稲妻」と「虫籠窓」(古荘宅子邸)

- 製作年 明治15年(1882年)
- 製作者 長野 鐵蔵

ぶん回しと呼ばれるコンパスで朝顔の花を描き、上部に雲、下に波と水でまとめている。朝顔は子孫繁栄、稲妻は稲の豊作を願ったもの。古荘家住宅は築128年(2010年現在)市指定重要有形文化財で、貴重な資料も保存されている。珍しい「虫籠窓」にも黒い絵が描かれている。



所見

宇佐郡は、宇佐市を除く安心院町と院内町の2町で形成されているが、この二町は共に宇佐市に祀る宇佐宮の八幡文化の御心を生かした町である。

特に宇佐宮祭神の比売大神の元宮である妻恒神社がある。その隣村の竜王村は正安年中、宇佐大宮司、安心院公泰が竜王山上に城を築き安心院氏の祖先となった村である。

その村の代々の庄屋であった古荘家の家屋は明治13年の建物ではあるが、安心院町の近代化の中で地域の伝統的な住文化を感じさせる建物である。

入母屋造り、棧瓦葺、塗籠造りの二階建ての外観である。この正面の特徴は

(1) 安心院町の一町一文化の象徴である『こて絵の里づくり』の核になる建物である。二階戸袋のこて絵には朝顔を描き、蔓の生命力のすばらしさで多くの花が咲き、子孫繁栄を願う当主の思いが込められている。

(2) 西土間側の入り口、式台付き玄関には持送りのついた出桁庇。家紋入りの丸瓦を使った客座敷への門、塀にこの家の格式を感じさせる。

内部は、六つ間取りで南側の二間つづきのひろまとなかんま、ざしき、北側のないしょ、などに分かれている。二階の床梁や二階を支える差物の横架材、柱は4寸以上の大材を使い骨組みを固めている。小屋組は、地松の三重梁で屋根を支えている。

特に座敷は地球儀をデザインした書院障子を始め、欄干障子や違棚等に個性的な空間を形成している。

以上、外観、室内とも21世紀の住文化の方向を示す、自給自足、地産地消、グローバルにしてローカルな造形空間を構成している。

古荘家は安心院町の歴史を語る住宅として、町指定に値する内容を持つ文化遺産であると思う。

街並みと街づくりを考える大分県民の会

代表 村松 幸彦

上棟之当日 明治13年癸卯9月6日也

戸主 古荘大策実勝

棟梁 恵良廣平正忠

経過年数 125年(平成17年9月現在)

上記は平成17年2月、「古荘家住宅調査報告書」として株式会社 大分住宅研究室より町教育委員会に提出された報告書に添えられた調査所見です。その後安心院町指定文化財(後に宇佐市指定文化財)に指定されました。